

富山市えごま6次産業化推進プラン

～富山えごま推進戦略2030～



令和2年3月

富山市

<目次>

第1章 計画策定の趣旨	2
第1節 策定趣旨	2
第2節 計画の期間・位置づけ	3
第3節 計画策定の進め方	3
第4節 富山市SDGs未来都市計画について	3
第2章 えごま6次産業化の現状と課題	7
第1節 農業を取り巻く情勢	7
第2節 本市の特性	8
第3節 本市の農業の現状	12
第4節 本市のえごま6次産業化の現状と課題	14
第3章 えごま6次産業化推進に向けた戦略	28
第1節 将来方針	28
第2節 戦略コンセプト	29
第3節 短期戦略	29
第4章 推進施策	30
第1節 富山えごまの生産力強化	30
第2節 富山えごまの販売力強化	32
第3節 富山えごまの認知力強化	33
第4節 富山えごまのブランド力強化	35
第5章 計画の推進体制と進行管理	36
第1節 計画の推進体制	36
第2節 各種計画への反映状況	36
1. 第2次富山市総合計画前期基本計画	36
2. 第2期富山市環境基本計画	36
3. 第2次富山市環境未来都市計画	36
4. 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略	37
5. 富山市農業・農村振興計画	37
第3節 計画の進行管理	37
<資料編>	38
富山えごまの普及に向けたこれまでの取組	38
富山えごま認定商品一覧	45

第1章 計画策定の趣旨

第1節 策定趣旨

本市では、平成17年4月1日の市町村合併後の平成19年2月に、食料の安定供給と市域環境の保全を図ることを目的として平成28年度を目標年度とする「富山市農林漁業振興計画」を策定し、農林漁業の振興に向けた各種施策を進めてきました。

しかしながら、農業については、農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加が一段と加速するとともに、農産物の価格低迷により農業所得が伸び悩んでおり、特に中山間地域における農村では、少子高齢化の進行により集落機能や地域活力が低下するなど厳しい状況におかれています。

このような状況において、本市は、平成23年12月に、環境・超高齢化等への対応の面で、産学官民が連携して世界に類のない成功事例を創出するとともに、その成功事例を国内外に普及展開することを通じて、新産業の創出や地域活性化など、持続可能な経済社会構造の実現を目指す「環境未来都市」の選定を受けました。

平成24年5月に策定した「第1次富山市環境未来都市計画(計画期間:平成24年度～平成28年度)」では、①公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり、②質の高い魅力的な市民生活づくり、③地域特性を十分に活かした産業振興、を柱に取り組みむこととしており、中山間地域における農業の振興等を目指した環境未来都市のリーディングプロジェクトとして、「富山市えごま6次産業化推進事業」がスタートしました。これは、平成26年3月に富山市山田地域における温泉熱を活用した「牛岳温泉植物工場」を整備し、生産から加工、販売までを一気通貫して行うとともに、付加価値の高い農業形態を目指すものです。

今後、本格的な人口減少社会が到来するにあたり、エゴマが地域の特産品として、広く認知され、産業として持続的に成長を続けていくためにも、社会経済情勢の変化に対応した施策展開が求められます。さらに、持続可能な開発目標(SDGs)の目標達成を見据え、長期的視点に立って市民の健康福祉やクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を図るための施策を総合的・計画的に進めることが重要になっています。

こうしたことから、本市のえごま6次産業を持続的に発展させるため、新たに「富山市えごま6次産業化推進プラン(富山えごま推進戦略2030)」を策定し、様々なステークホルダーと長期的な展望を持ち、本市の強みを活かして、持続可能な成長を目指しながら、一層の産業振興を図るものです。

第2節 計画の期間・位置づけ

1. 期間

本計画は、その初年度を令和2年度(2020年度)とし、期間を令和11年度(2029年度)までの10年とします。ただし、変化する社会経済情勢を見極めつつ、必要に応じて、適宜見直しを図ります。

2. 位置づけ

本計画は、上位計画である「富山市総合計画」を踏まえつつ、「富山市環境未来都市計画」や「富山市SDGs未来都市計画」とも整合を図り、今後のえごま6次産業化を推進するためのアクションプランとなるものです。

第3節 計画策定の進め方

本計画は、エゴマの生産者や流通・販売者、大学関係者、マスコミ等で構成する「富山市えごま6次産業化推進グループ」のメンバーを中心として、「富山市えごま戦略策定業務ワークショップ」を開催し、将来ビジョンや「富山えごま」のコンセプト、具体の施策について検討を重ね、その素案をもとに策定しました。

第4節 富山市SDGs未来都市計画について

SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)とは、「世界中の誰一人取り残さない」をテーマに、平成27年(2015年)9月の国連サミットで193の全ての国連加盟国が合意した2030年までに達成すべき課題と、その具体的目標を定めたものです。

その内容は、貧困・飢餓、健康・福祉、教育、気候変動、平和・公正等といった17分野にわたる目標と、より具体的な169の達成目標、さらに目標の達成に向けた進捗状況を測るための230の指標が設けられ、グローバル化が急速に進む社会、経済、環境上の様々な課題に対して、世界各国の市民や企業、行政が協働して取り組むものとされています。

本市では、平成30年(2018年)6月15日に内閣府の「SDGs未来都市」に選定されるとともに、本市の取組がSDGs未来都市の中でも先導的であって、多様なステークホルダーとの連携を通じて地域における自律的好循環が見込めるものとして、「SDGsモデル事業」にも選定されました。

今後、本市では、社会、経済、環境の3分野における新しい価値創出を通して、持続可能な開発目標の達成に向けて総合的かつ効果的な取組を推進していきます。本計画では、経済価値の目標である「市内企業の活性化や新技術の活用等により、持続可能な付加価値を創造し続けるまち」や、環境価値の目標である「健康・医療、子育て・教育環境の充実等により、一人ひとりが個性を發揮し、活力あるまち」の実現を図ることにより、「富山市SDGs未来都市計画」の目標達成に寄与していきます。

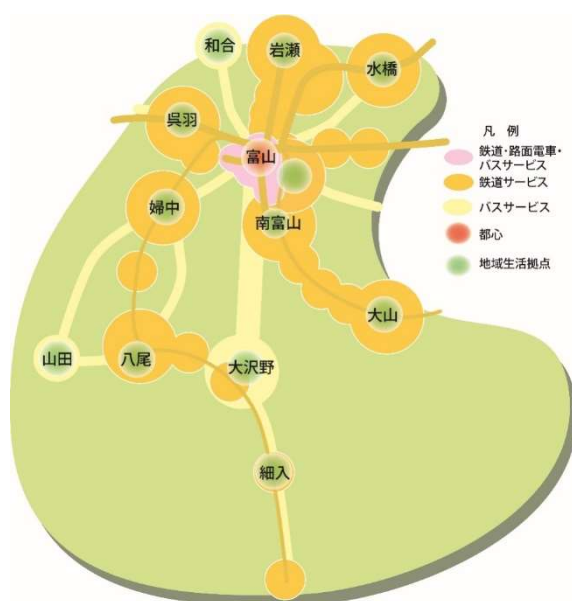
1. 今後取り組む課題～「富山市SDGs未来都市計画」より～

(1) 都市のかたち

【公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり】

本市のまちづくりの基本的な考え方は、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指します。

<公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり>



(富山市が目指す「お団子と串」の都市構造)



(富山ライトレール「ポートラム」)



(市内電車環状線「セントラム」)

(2) 市民生活・エネルギー

【再生可能エネルギーの利活用】

本市は、多様な地形を有し、豊富な水資源をはじめ様々な自然エネルギーに恵まれており、河川や水路の落差を利用した小水力発電や、市域の約7割を占める森林を活用した森林バイオマスなど、再生可能エネルギーの導入を促進する上で有利な条件を備えています。

近年では、農山村活性化に向けた再生可能エネルギーの導入、下水処理施設における消化ガスの有効活用、小水力発電の国際展開など、地域活性化や国際貢献といった新たな視点による様々な取組を展開しています。

【化石燃料依存からの脱却】

2015年に国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において「パリ協定」が採択され、温室効果ガスを極限まで削減する脱炭素社会に向けた動きが加速しています。

本市は、日本政府より「環境モデル都市」に選定され、低炭素社会のモデルを示すべく、温室効果ガスの大幅な削減に努めています。

また、国際連合 SE4ALL(Sustainable Energy for ALL)における「エネルギー効率改善都市」に日本で唯一選定され、エネルギー効率改善ペースの加速等により、化石燃料消費の抑制を図っています。

【都市レジリエンスの向上】

本市は、2014年12月に米国・ロックフェラー財団が主導する「100のレジリエント・シティ」(100RC)プログラムにおいて、都市が直面する課題に対し、先進的な取組を行う世界の100の都市の1つとして選定されました。

これを受け、本市では2017年3月に「富山市レジリエンス戦略」を策定し、自然災害等に対応する都市レジリエンスの向上に資する様々な取組を推進しています。

(3) 産業

【医薬品関連産業の集積】

本市は、和漢薬に代表される「くすりの富山」の伝統と高い製造技術を背景に、新薬開発をはじめ、ジェネリックや一般薬のほか、配置薬、医薬品製造原料(原薬・中間体)など、地方圏では有数の医薬品製造業の集積地となっており、また包装、印刷、パッケージ等の医薬品関連産業も充実しています。

さらに、「富山大学和漢医薬学総合研究所」、「富山県薬事総合研究開発センター」など、公的な試験・研究機関が、医学・薬学に関する研究活動を展開しています。

【新産業への発展】

超高齢社会の進展を背景として、今後、外出が困難な高齢者や障害者等への薬の供給や、在宅介護サービスの充実、高齢者や障害者等の見守りサービスなどが、様々な社会的ニーズに応えた新しい産業としての発展可能性を有しています。

【農林水産業の活性化】

本市の農業は、高齢化や後継者不足に直面しており、兼業率も高い状況にあります。

また、林業は、山村地域の過疎化や少子高齢化の進行による後継者不足、長期的な木材価格の低迷などにより収益が悪化しています。

こうした状況において、6次産業化や農業のスマート化等による農林水産業の活性化、高付加価値化が求められています。

(4) 国内外の都市・地域

【包括的なつながりの再構築】

人口減少や超高齢社会の進展に伴い、コミュニティのつながりの希薄化が懸念されています。

家族や地域のみならず、人と人、人と資源が丸ごとつながり、あらゆる国、分野を越えて様々なつながりを再構築し、包括的なつながりを有する都市を構築していくことが求められます。

【人口減少社会への対応】

人口減少に伴う地域経済の縮小が懸念されることから、市内のみならず、国内外の都市・地域とのネットワークを活かし、多様なステークホルダーと連携したパートナーシップが、今後一層重要になります。

これまでの環境モデル都市、環境未来都市の取組を経済価値、社会価値、環境価値の統合による都市創造のスパイラルアップの視点から発展させ、SDGs 未来都市「コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市」の実現を目指します。

<富山市の目指す都市創造のスパイラルアップ>



第 2 章 えごま6次産業化の現状と課題

第 1 節 農業を取り巻く情勢

1. 農業を取り巻く情勢

我が国の農業は、農業従事者の高齢化や担い手の減少、耕作放棄地の増加等が進み、食料自給力が低下する傾向にあり、また、農産物価格の低迷による農業所得の減少により生業としての魅力が低下しています。

また、少子高齢化の進行により本格的な人口減少社会が到来し、農村地域においては、地域活力が低下し、集落機能や地域資源の維持にも影響が生じることが懸念されています。

このような情勢の中、TPP などによる新たな貿易のルールづくりは、国内の農産物と海外の農産物との間で価格競争が起きる可能性があり、その影響は不透明な部分が多く、農業者にとって不安要素になる一方で、「和食」の海外における関心の高まりにより、国産農産物の輸出が拡大する可能性も秘めています。

消費面においては、少子高齢化・単身世帯の増加・食の外部化の進展等により、消費者の食のライフスタイルが変化し多様性が増す一方、食品偽装問題や食中毒事件の発生などにより、食の安全に対する消費者の関心も高くなっています。さらに、食生活の乱れによる肥満や生活習慣病の増加などから、子どもから大人まで幅広い「食育」の取組の必要性も大きくなっています。

2. 国・県の農業施策の動向

(1) 国の動向

国においては、平成 25 年度に農林水産業・地域の活力創造プランを策定し、その中で、農業・農村全体の所得を今後 10 年間で倍増させることを目指し、①輸出促進や地産地消、食育等の推進による国内外の需要の拡大、②6次産業化等の推進による農林水産物の付加価値向上、③農地中間管理機構の活用による農業の生産コスト削減や経営所得安定対策、米の生産調整の見直しによる生産現場の強化、④日本型直接支払制度や農村漁村の活性化による多面的機能の維持・発揮を 4 つの柱として、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を創り上げる方針を示しています。

また、平成 27 年 3 月に閣議決定された新たな食料・農業・農村基本計画では、農業や食品産業の成長産業化を促進する「産業政策」と農業・農村の多面的機能を維持・発揮を促進する「地域政策」とを車の両輪として、食料・農業・農村施策の改革を着実に推進するとし、まち・ひと・しごと創生総合戦略等を踏まえ、関係省庁の連携のもとで、その取組を総合的に推進することとしています。

(2) 富山県の動向

平成 33 年度を目標年度とする富山県農業・農村振興計画では、①食の安全確保や食育と地産地消の推進、環境に優しい農業の普及拡大による「新鮮で安全な食の供給」、②食のとやまブランドの育成や競争力のある農産物の生産による「消費者の心をつかむ商品の育成」、③意欲ある担い手の育成、未来を切り拓く技術の開発・普及、優良な生産基盤の確保、集落ぐるみによる地域資源の保全・活用による「次代につなぐ生産体制の構築」、④魅力ある美しい農村の形成、中山間地域の活性化による「魅力ある美しい農村空間の創造」の 4 つを基本施策とし、『「いのち」と「くらし」を支える元気な農業と魅力ある農村の実現』を基本目標とし、各種取組を進めています。

第 2 節 本市の特性

1. 位置・面積

本市は、富山県の中央部に位置し、東南は立山連峰を経て長野県に接し、北は日本海の富山湾に面しています。市域は、東西 60.7 キロメートル、南北 43.8 キロメートルで、総面積が、1,241.77 平方キロメートルと富山県の約 3 割を占め、国内においても最大級の面積を有する日本海側有数の中核都市です。

2. 地勢・気象

本市の南部には、急峻な山岳があり、これらの山々を源とする、大小の河川が中山間地域を経て、肥沃な平野部を形成し、富山湾に注いでいます。

このように、海拔 0 メートルから標高 3,000 メートル級に及ぶ標高差と広大な面積を有する本市は、主要な河川の上流から下流までが一体となった多様な自然環境を要する都市となっています。

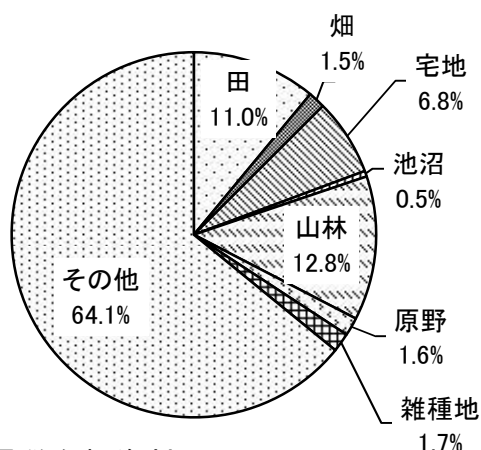
交通面では、平成 27 年の北陸新幹線開通により、首都圏からのアクセスの利便性が向上し、また、北陸自動車道、国道 8 号が東西の幹線として、JR 高山本線、国道 41 号が南北の幹線として整備され、さらに、富山港、富山空港も国内外との交流拠点として整備されており、本市は、陸、海、空の広域交通の結節点となっています。

気象面では、直近 10 年間の平均降水量は 2,395mm、年平均気温は 14.5℃、年間合計日照時間は平均 1,666 時間となっており、合計日照時間は、直近 5 年間は平均を上回る傾向にあります。

3. 土地利用

本市の市域面積(1,241.77 平方キロメートル)のうち、田は 11.0%、畑は 1.5%となっています。なお、その他の面積が 64.1%を占めており、その大半は国有地等を含む山岳地帯となっています。

【地目別面積】



出典：平成 28 年度固定資産課税台帳資料

4. 人口・世帯

(1) 人口、世帯数

直近 10 年の動向をみると、市全体の人口はわずかに減少しています。その一方で、世帯数は増加傾向にあり、1 世帯当たりの人口は減少傾向にあります。

地域別の人口をみると、富山地域ではここ 10 年間はほぼ横ばい、婦中地域は増加していますが、その他の地域、特に山田地域や細入地域では大きく減少しており、平野部と中山間部で増減率の差が大きくなっています。

【人口、世帯数等の推移】

	平成 17 年		平成 27 年		増減率	
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口	世帯数
富山地域計	325,347	122,632	323,424	128,001	-0.6%	7.0%
大沢野地域計	22,631	7,038	21,586	7,278	-4.8%	4.8%
大山地域計	11,355	3,635	10,303	3,559	-10.2%	-3.9%
八尾地域計	21,811	6,506	19,832	6,577	-10.0%	-0.4%
婦中地域計	36,448	10,888	40,799	12,776	10.7%	19.8%
山田地域計	1,962	459	1,612	448	-21.7%	-7.2%
細入地域計	1,685	569	1,344	512	-25.4%	-18.8%
市計	421,239	151,727	418,900	159,151	-0.6%	7.3%
1 世帯当たり人口	2.8 人		2.6 人			

出典：各年国勢調査

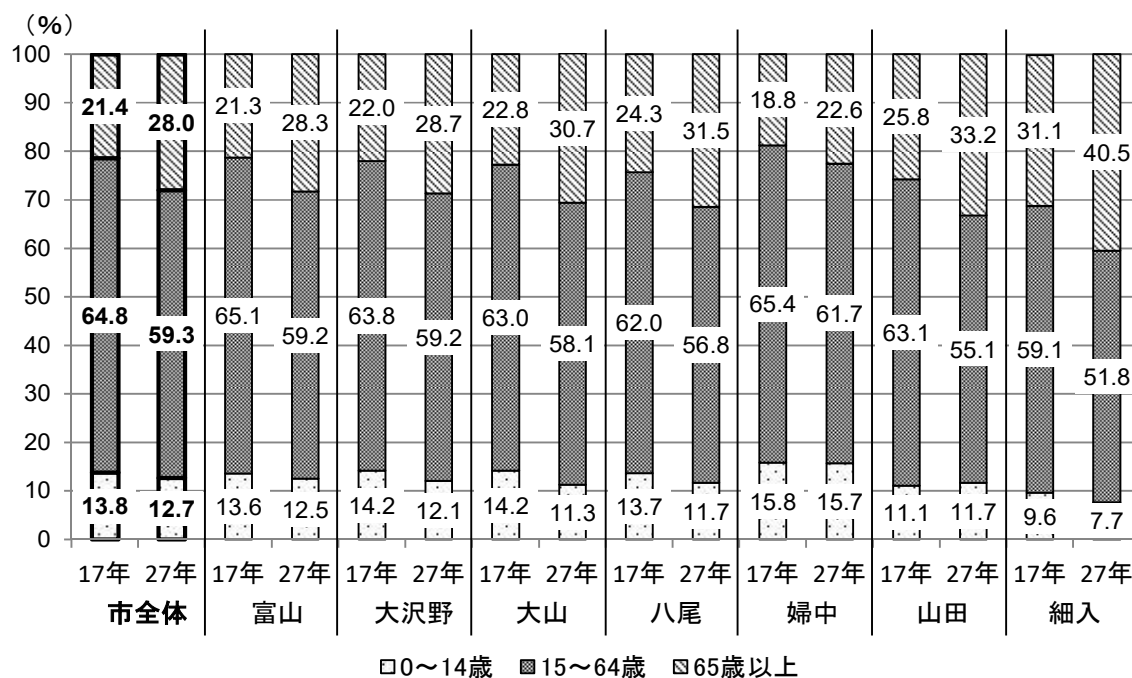
(2) 年齢構成

平成 27 年時点では 0～14 歳は 12.7%、15～64 歳 59.3%、65 歳以上は 28.0% であり、平成 17 年と比べると、0～14 歳と 15～64 歳の比率が減り、65 歳以上の比率が大きく増加しています。

平成 27 年の比率を地域別にみると、婦中地域のみ 0～14 歳及び 15～64 歳の比率が市全体の比率より大きく、65 歳以上が小さくなっています。

一方、大山地域・八尾地域・山田地域・細入地域では 65 歳以上の比率が 3 割を超えており、中山間地域ほど高齢化が進行しているものと推測されます。

【年齢別、地区別年齢構成比の推移】

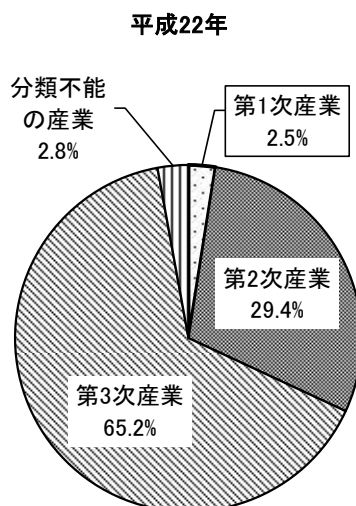


注：各年 12 月末 出典：住民基本台帳

(3) 産業構造人口

平成 22 年の 15 歳以上就業者の総人口は 208,790 人で、15 歳以上就業者の総人口のうち、第 1 次産業※の従事者は 2.5% (農業のみだと 2.3%)、第 2 次産業※は 29.4%、第 3 次産業※は 65.2% を占めています。

【産業構造人口構成比の推移】



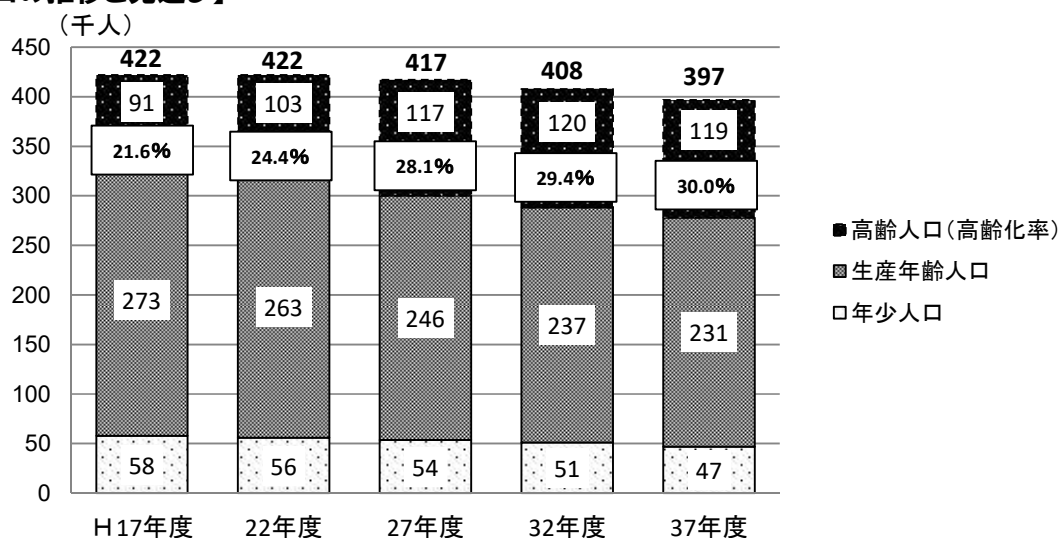
出典：平成22年国勢調査

(4) 将来人口予測

富山市の総人口は、国勢調査では平成 22 年をピークに減少に転じ、令和 7 年(2025 年)には 40 万人を下回ると推計されています。

また、総人口に占める高齢人口(65 歳以上)の割合は今後増加すると見込まれており、より高齢化が進むものと予想されています。

【人口の推移と見通し】



出典：第 2 次富山市総合計画より抜粋

第3節 本市の農業の現状

1. 担い手

(1) 農家数

平成27年現在の総農家数は6,570戸で、うち自給的農家が1,804戸、販売農家が4,766戸となっています。販売農家のうち73.8%が第二種兼業農家で、専業農家は16.9%となっています。

総農家数は平成17年から平成27年までの間に2,800戸減少していますが、専業農家は増加し、第二種兼業農家は減少しています。

【農家数の推移】

(単位:戸)

平成	総農家数	自給的農家	販売農家 (専業+兼業)	専業農家	兼業農家		
					計	第一種※	第二種※
17年	9,370	1,851	7,519	805	6,714	530	6,184
			100.0%	10.7%	89.3%	7.0%	82.2%
22年	7,958	1,884	6,074	431	5,643	401	5,242
			100.0%	7.1%	92.9%	6.6%	86.3%
27年	6,570	1,804	4,766	805	3,961	446	3,515
			100.0%	16.9%	83.1%	9.4%	73.8%

出典:各年農林業センサス

(2) 農産物販売金額規模別農家数

平成27年現在の農産物販売金額規模別農家数は、「100万円未満」が58.3%と最も多く、次いで「100～300万円」が26.4%となっています。

平成17年と平成27年を比べると、販売金額が「1,000万円以上」の経営体の数と比率が増加しています。

【農産物販売金額規模別農家数の推移】

(単位:戸)

平成	販売なし	100万円未満	100～300万円	300～500万円	500～1,000万円	1,000～5,000万円	5,000万円以上
17年	364	3,893	2,697	328	171	127	6
	4.8%	51.3%	35.6%	4.3%	2.3%	1.7%	0.1%
27年	261	2,878	1,303	187	142	153	15
	5.3%	58.3%	26.4%	3.8%	2.9%	3.1%	0.3%

出典:各年農林業センサス

(3) 経営耕地面積規模別農家数

10年前と比較すると、経営耕地面積※0.3～1.0haの経営体の割合が最も多くを占めている状況には大きく変化はありませんが、5.0ha以上の経営体の割合が増加しています。

【経営耕地面積規模別農家数の推移】

(単位:戸)

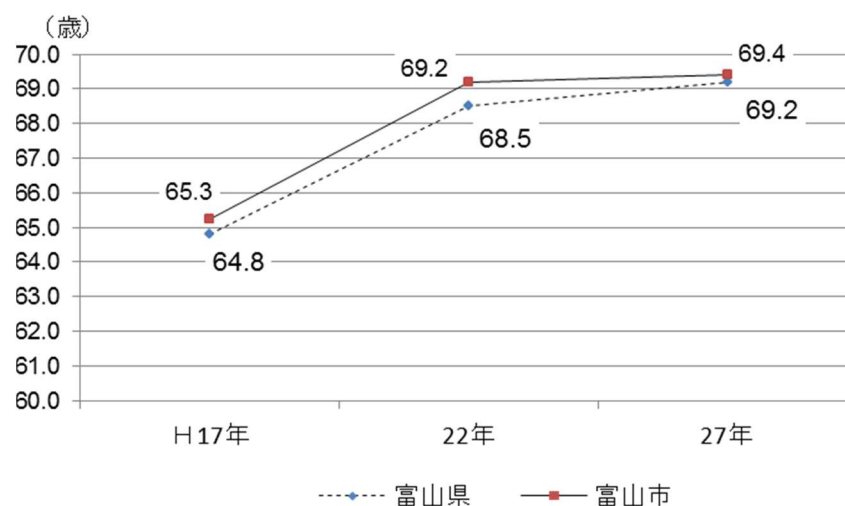
平成	0.3ha 未満	0.3～ 1.0ha	1.0～ 2.0ha	2.0～ 3.0ha	3.0～ 5.0ha	5.0ha～	計
17年	33 0.4%	3,332 44.3%	2,789 37.1%	887 11.8%	335 4.5%	143 1.9%	7,519 100.0%
22年	34 0.6%	2,499 41.1%	2,265 37.3%	768 12.6%	321 5.3%	187 3.1%	6,074 100.0%
27年	32 0.7%	1,927 39.3%	1,717 35.0%	629 12.8%	295 6.0%	303 6.2%	4,903 100.0%

出典:各年農林業センサス

(4) 農業就業人口の平均年齢

農業就業人口※の平均年齢は69.4歳で、県全体よりやや高くなっています。直近10年間の推移をみると、年々高齢化しています。

【農業就業人口の平均年齢】



注:平成17年の富山市の数値は合併前の旧市町村の平均。

出典:各年農林業センサス

第4節 本市のえごま6次産業化の現状と課題

1. エゴマの概要

エゴマはシソ科シソ属の1年生作物で、インド及び中国中南部が原産地と言われております。植物学的にはシソと同じ種で、主として油糧用に利用されたものがエゴマ、香味野菜として利用されたものがシソです。

日本におけるエゴマ栽培については、約5千年前の縄文時代中期の遺跡からエゴマが見つかっており、古来より栽培され食べられてきたと考えられます。エゴマの種子は含油率が高く、古くから食用以外では灯油用の油として、また、油紙、雨傘、雨合羽等の塗布剤としても用いられてきました。江戸時代に菜種油が普及すると、油糧作物としての栽培は減少しましたが、戦前まで自給自足を基本としてきた日本の山間地域では伝統食の食材として受け継がれていき、とりわけ冷涼な中部地方から東北地方では「エゴマの食文化」が展開し、餅や麺の調味に欠かせないものとなりました。しかし、戦後食文化農業近代化、交通の発達などにより自給自足体系が衰退すると、エゴマは次第に作られなくなり、その食文化も忘れ去られるようになっていきました。

そのような状況の中、平成9年に福島県田村市船引町の農家がエゴマ栽培とエゴマ油の搾油に取り組み、その後、日本エゴマの会を立ち上げ、福島県をはじめ全国にエゴマの普及拡大を進めました。その結果、20年後の平成29年には、エゴマの栽培面積は全国で384haまで拡大するに至りました。栽培面積を地域別にみると北海道地域が64ha、東北地方が131ha、関東地方が31ha、中部地方が69ha、近畿地方が3ha、中国地方が78ha、九州地方が8ha、道県別でみると北海道が64ha、福島県が60ha、島根県が58ha、宮城県が29ha、岩手県が25haで全国の栽培面積の6割を占めています。(公益社団法人 日本特産農産物協会の調べ)

本市の栽培状況につきましては、平成25年度では3haの栽培面積でしたが、年々栽培が拡大し、平成29年度では19ha、平成30年度には30haを超える栽培規模となっています。



2. エゴマの品種と分類

(1) 品種

エゴマの品種については、我が国では品種改良は行われておらず、各地に適応した多数の在来品種が栽培されています。

【在来品種の原産地】

青森、岩手、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、長野、愛知、岐阜、高知

(2) 分類

【種皮の色による分類】

白種：種皮の色は灰白色。含油率45%程度、種皮は大きく種皮が厚いです。

黒種：種皮の色は茶・黒褐色。含油率65%程度、種皮は白種よりも小さいです。

(3) 特性

【形態】

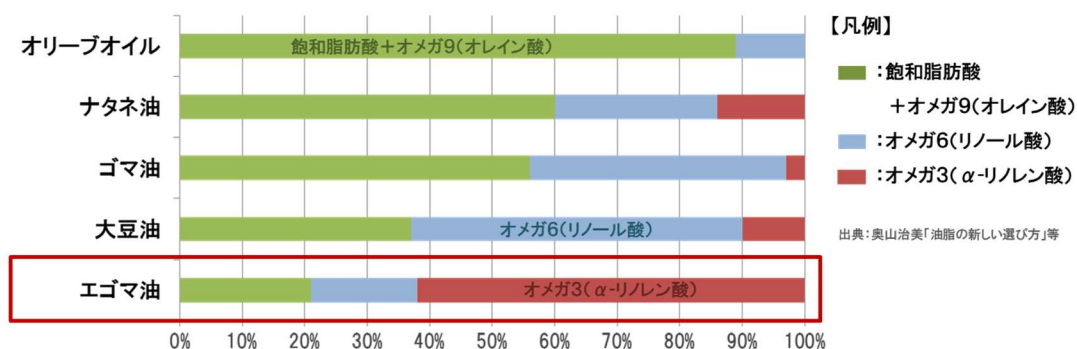
草姿はシソによく似ています。吸肥力が強く、肥沃な土壌や肥料分が多い圃場、早い播種では2mを超える草丈になることもあります。葉は卵型で先がとがり茎に対生し、葉身には毛が生え、縁は鋸状です。穂には多数の白い花が咲き、一つの花に4つの種子が結実します。

【香り】

エゴマには独特の香りがあり、この香りは「ペリラケトン」や「モノテルペンケトン」等のアロマ成分によるものです。これらの香り成分は茎葉に多く含まれ、植物の茎葉や根の生育に影響を及ぼし、微生物の繁殖を抑制するとともに、食すると食欲増進効果があるといわれています。なお、エゴマはイノシシなどの獣害を受けることが少なく、山間地での栽培に向いているといえます。

【油脂】

エゴマの子実には、白種品種で45%、黒種品種で65%程度の油脂が含まれており、その油を構成する脂肪酸の主体が青魚に多く含まれるDHA(ドコサヘキサエン酸)やEPA(エイコサペンタエン酸)と同系列のオメガ3系脂肪酸である α -リノレン酸です。 α -リノレン酸は、人間が体を維持していくうえでなくてはならない脂肪酸で、血液をサラサラにする、心筋梗塞や脳卒中等の予防効果があるとされています。また、植物油には、さまざまな脂肪酸が少しずつ混ざっていますが、「エゴマ油」の α -リノレン酸含有割合は格段に高くなっています。さらに、エゴマには、花粉症やアトピーといったアレルギー症状を抑える抗酸化作用があるとされる「ルテオリン」という成分が含まれているほか、種や葉にはカルシウムや鉄分も多く含まれていることから、近年、エゴマは健康食品として注目されています。



- ・ 厚生労働省が推奨する「オメガ3系脂肪酸」の目標摂取量は1日およそ2グラム
<イワシなら... > <えごま油なら... >



1日、**2尾** (刺身など生食の場合)



1日、**小さじ1杯** 程度

<ロズマリン酸を多く含む食品>

シソ、**エゴマ**、ローズマリー、レモンバーム



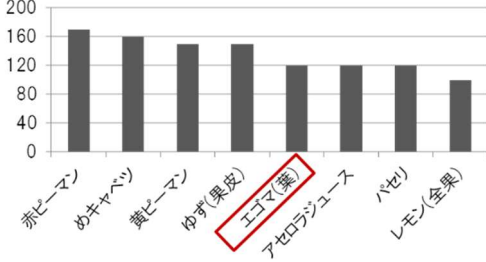
抗酸化作用とは

活性酸素から身体を守る(身体の酸化を防ぐ)働きを指し、この機能が低下すると、動脈硬化などを引き起こし、生活習慣病や老化促進を招くとされる。

本来人間が持ち合わせるこの抗酸化作用は、**加齢**によりその機能が徐々に低下するとされることから、**食事からの摂取が重要**。

<ビタミンCを多く含む食品>

(mg/100g) 出典: 文部科学省「五訂増補日本食品標準成分表」など



3. 本市のえごま6次産業化の取組

(1) 富山におけるエゴマの歴史

日本海側最大級の縄文時代の貝塚「小竹貝塚」で出土された約6千年前の縄文土器に、大量のエゴマの実の跡が発見されました。これは、食料や油料、豊作を願う神具として使われていた可能性があり、太古の時代から富山市とエゴマには強い繋がりがあったと考えられます。

また、富山市のほか全国各地にある「荏原(えばら)」という地名の由来は、「荏胡麻(エゴマ)」が生えている野原であったとの説があります。

なお、富山市大沢野下夕地区においては、昔から自家用食材として手作業で栽培されており、毎年開かれる「ごへい祭り」では、エゴマ入り味噌を付けた『ごへい餅』が振舞われています。

▲H27.12.16北日本新聞朝刊

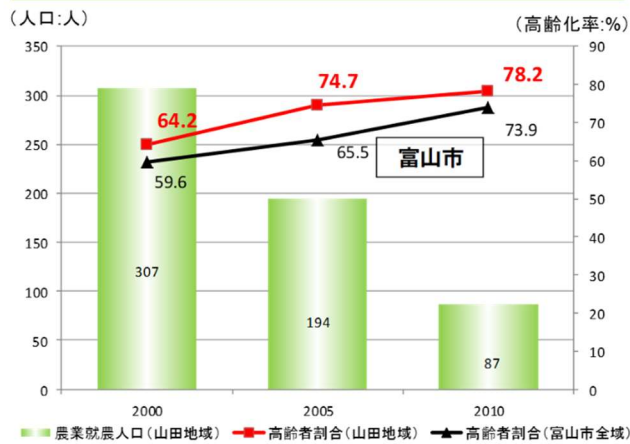


▲下々地区の収穫の様子

(2) 牛岳温泉植物工場

本市では平成 23 年に国から「環境未来都市」の選定を受け、富山市環境未来都市計画を策定し、その中で「えごま6次産業化による多様なビジネスの推進」として、生産から加工、販売までを一気通貫して行い、付加価値の高い農業形態を目指してきました。そのために、平成 26 年 3 月に、高齢化・過疎化が進む山田地域にある牛岳温泉の温泉水や太陽光発電を活用した完全人工光型植物工場を整備し、エゴマ葉の水耕栽培を行っています。

山田地域の農業就業人口の減少と高齢化の進展



▲ 牛岳温泉植物工場



▲ 栽培状況

(3) 露地栽培の取組

平成 25 年度から中山間地域等でのエゴマの定着化に向けた露地の試験栽培や生産性調査等を実施しています。その結果、平成 25 年度の露地栽培面積が 3.0ha であったものが、平成 30 年度において 30.1ha となっており、エゴマの栽培面積は着実に拡大しています。

そのうち、大沢野地域塩地区において、24ha の一団の耕作放棄地等を市が基盤整備し、大規模優良農地として再生し、平成 30 年度では、そのうちの約 16ha において、エゴマの大規模露地栽培を行っています。

【エゴマ露地面積の拡大】



H25 年度 : 3.0ha	H28 年度 : 15.4ha
H26 年度 : 4.2ha	H29 年度 : 19.1ha
H27 年度 : 7.7ha	H30 年度 : 30.1ha



大規模優良農地(24ha)



(4) エゴマの販路拡大に向けた取組

【富山市えごま6次産業化グループ】

牛岳温泉植物工場及び露地栽培におけるエゴマの生産、加工、商品化、流通などを総合的に推進する「富山市えごま6次産業化推進グループ」を組織し、有効成分のエビデンスを確保し、エゴマを使用した商品の研究開発や、試食会、展示会での宣伝、SNSを活用した宣伝・普及を行うことにより、エゴマの消費増大に取り組んでいます。(令和 2 年 2 月末日現在 104 団体・個人)

【普及啓発活動】

試食会・展示会等でのPR活動や、えごま商材の無償配布「お試しキャンペーン」等により普及啓発活動を実施。



【SNSでの活動発信】

「富山えごま」を使ったレシピやえごま6次産業化推進グループの活動についてSNSで発信。

【「富山えごま」認定商品】

富山地域で生産・製造された27社・団体から98品目を認定。



【地域ブランド「富山えごま」の普及】

本市が特産化を目指すエゴマの認知度を高め、より市民に愛され、地域に根差した特産物になることを目指して、平成30年3月に、地域ブランド「富山えごま」ロゴマークを公募により決定し、平成30年度に商標登録を行いました。平成30年度からは、「富山えごま認定商品登録制度」を創設し、富山産エゴマを使って市内で販売されている等の条件を満たす「富山えごま認定商品」は、令和2年2月末日現在で、98商品となっています。

◀「富山えごま」認定条件▶

認定条件

- 条件①富山市民が購入できる商品
- 条件②富山市内に所在を持つ事業者・個人が生産・製造・加工・または販売している商品
- 条件③富山県内で生産されたえごま、又は富山県外産であっても認証機関による有機認証等の認定を受けたえごまを使った商品(同等程度の品質のものを含む)

「富山えごま」ブランド名と認定商品の普及

「富山えごま」を地域に広めるため、市民公募により親しみのある「ロゴマーク」を作成し、ロゴをオイルやドレッシングなどの関連商品等に使用するなど広く普及を図る。
(令和2年2月末日現在：27社・団体、98品目認定)

※富山県の形をイメージしたエゴマの葉と、躍動感あるエゴマの実のイメージ





▲えごまドレッシング



▲えごまの実・パウダー



▲えごまりーフティー



▲ えごまどらやき



▲ 飲食店メニュー(生春巻き、サラダ等)

【市民への普及啓発】

市民へのエゴマの普及啓発を図るため、お庭や畑でエゴマを栽培してもらい、身近な植物として知っていただく、キャンペーン事業として種子を無料配布しました。

《えごまを育ててみようキャンペーン》
～えごま種子の無料配布～

- ・期間
平成30年6月
- ・配布先
富山市役所窓口ほか行政施設
- ・配布数
2,000袋



＜富山えごまモニター調査の実施＞

・概要

富山えごまのサプリを試飲したモニターに対し、効果効能に関する体感的なアンケート調査を実施し、そのデータなどについて活用するもの。

・期間

令和元年11月中旬～令和2年2月中旬の3か月間

・サプリ仕様

メーカー名	廣貫堂
原産国	日本産(富山えごまを使用)
原材料	食用エゴマ油、ゼラチン、グリセリン
服用	1日3カプセルを摂取

・モニター対象者

富山市在住の男女40歳以上を対象に30名の方

(調査結果の概要)

- ・「体調の変化」については、「変化があった」が33%、「あまり変化がなかった」が67%となった。
- ・「満足度」については、「満足」及び「やや満足」が57%、「わからない」が40%、効果なしは、3%であった。
- ・「エゴマ油に含まれる特に魅力を感じる健康効果」は、1位 高血圧の改善、2位 記憶力のUP、3位 心筋梗塞の予防と及び美肌効果となった。
- ・「変化があった」とお答えした方の具体的な変化の自由記載については、手荒れの改善や肌の潤いがあった等の美肌効果、体重及び血圧の改善、便秘や冷え性の改善などの効果の報告があった。
- ・エゴマ油等の関連商品を購入したいと回答した方は、全体の97%であった。
- ・エゴマ油等の関連商品で関心が高いものは、瓶詰めのエゴマ油が1位で、エゴマ油の関連商品が葉や実よりも関心が高い。

【エゴマの国際展開】

《イタリア食科学大学との協定・エゴマグローバルブランド化》

平成 27 年 5 月、イタリアの食科学大学と、イタリア国外の自治体としては世界初となる協力協定を締結するとともに、えごま6次産業化を目指す環境未来都市プロジェクトの一環として、エゴマ油とオリーブ油を最適配合したグローバルなヘルシーオイルの開発に向けた日伊共同研究がスタートしました。その後、2 年間の研究を踏まえ、平成 29 年春には、「ブレンドオイル」を開発し、民間企業において販売が開始されました。

さらに、日本産食材を扱う海外の飲食店を認定した「日本産食材サポーター店」において、エゴマを活用してもらうことにより、エゴマのグローバルブランド化と海外展開を促進しました。(平成 30 年度末現在、日本産食材サポーター認定店は 49 店舗まで拡大)



協定を締結する森富山市長(写真左)とシルビオ・バルベロ食科学大学副学長/スローフード協会副理事長(写真右)



《日本産食材サポーター店認定制度》

日本の農林水産物や食品の海外展開を強化し輸出促進を図るため、日本産食材を扱う海外の飲食店を「日本産食材サポーター店」として認定する制度。

JETROの働きかけにより
ミラノ、ヴェネツィア、ローマなどで
認定店拡大 イタリア49店舗(H30年度末)

更なる拡大に向けて実施継続中
⇒フランスへの販路の拡大

欧州ミッション派遣(JETRO事業)
・パリ国際食品見本市視察
・日本産食材サポーター認定店訪問
・健康食品卸売業者訪問
・有機栽培施設の見学



認定



エゴマのグローバル
ブランド化

地場産業の
活性化

農林水産省やJETRO
による積極的な広報

シティプロモーション

都市のプレゼンス向上

輸出促進

様々な効果が期待

《ネパールでのエゴマ栽培拡大とSDGsへの貢献》

ネパールは、世界最高峰エベレストの麓にあり、国民の多数が主要産業である農業に従事していますが、農業だけでは十分な収入が得られないため、若者の多くは家族と離れ、都心部や海外へ出稼ぎに行かなくてはならない状況にあります。

農業生産法人である株式会社健菜堂は、牛岳温泉植物工場を拠点に植物工場でエゴマ葉の生産のほか、エゴマの露地栽培、生産物の加工販売を行っています。健菜堂では、数百年の歴史を誇る仏教寺院チョイフルクンドリン寺院を有するネパール東部の村リサンク・パカル村周辺で、無農薬で栽培されたエゴマの種子を買い入れ、富山市内で搾油・パッキングしたエゴマオイルの販売を行っています。

6次産業化推進の新たな展開として、高まる富山産エゴマ油の需要に応えるために、無農薬で栽培された品質の高いネパール産のエゴマの供給量の確保と現地関係機関との信頼関係構築を目的に、令和元年10月に、森市長がネパールへ渡航し、農林水産大臣、司法大臣等との会談を行った結果、エゴマの安定生産・安定輸出に向けた連携協力を行うこととなりました。令和2年には、健菜堂がエゴマ有機栽培の認証取得やネパールから技能実習生として複数名雇用することを予定しています。

こうしたネパールでの取組は、ネパールに対する栽培技術支援や、商取引による経済支援等につながることから、SDGsのゴール1(貧困)、ゴール2(飢餓)、8(経済成長)、ゴール10(不平等)、ゴール12(生産・消費)、ゴール17(実施手段)の達成に寄与するものです。



▲ネパールの位置



▲リサンク・パカル村の契約農家
(エゴマの脱穀の様子)



▲ネパール農林水産大臣との面談



▲期待されるSDGsのゴール

【SDGsモデル事業】

《IoTを活用したヘルシー&スマートシティの形成》

過度に自動車に依存したライフスタイルからの行動変容を促す ICT を活用した施策を実施し、歩いて健康に暮らすライフスタイルの定着を図ります。

市内3ヶ所において、気候・地形等のセンシング及び GPS での自動操舵を行う AI(人工知能)を搭載したトラクターやドローンを活用し、ICT による効率的なエゴマ栽培方法の確立を行うことにより、エゴマの収益性・経済性を飛躍的に高めることを目指します。

また、無人化による作業員の減少や労働生産性の向上、他の地域での展開による耕作放棄地の発生防止につなげるなど、環境価値の向上に寄与します。

さらに、ナノ粒子化技術のひとつであるセルロースナノファイバー(CNF)について、エゴマの茎や葉をはじめとする農産廃棄物から CNF を生成する技術を確立し、医薬品をはじめとするさまざまな産業への応用展開を見据えたイノベーション創出を目指します。

まず、行政は、民間企業が進める基礎研究に対して、研究支援という形で関与していきます。

次に、応用研究及び技術開発段階においては、基礎研究の成果を基に、CNF の実用化が見込まれる産業や企業とのマッチングなどを支援します。

こうしたナノ粒子化技術の活用により、エゴマのカスケード利用を実現し、産学官民が参画する「富山市えごま6次産業化推進グループ」において、エゴマ産業全体の底上げを図るとともに、CNF をはじめとする新技術の活用による技術・社会イノベーションの創出に寄与します。



▲ AI 搭載無人トラクター



▲ 農薬散布中のドローン

【部局横断型「エゴマプロジェクトタスクフォース」による検討】

富山えごまの一層の普及拡大等を図ることを目的として、部局横断的に検討を行う「エゴマプロジェクトタスクフォース」を平成30年に設置し、各種施策の検討を行っています。

《タスクフォースの目的》

富山えごまの需要を高めるための事業を組み立て、政策立案を行います。

＜構成メンバー＞

企画管理部次長をリーダーとし、企画管理部、環境部、農林水産部、商工労働部をはじめ、関係部局の職員

＜検討項目＞

「富山えごまの認知度向上」、「エゴマ商品の需要拡大」、「エゴマの安定供給」の観点から施策を整理し、政策立案を行います。

4. 本市のエゴマ6次産業化の課題

(1)生産量・生産者の不足

富山えごまの生産力強化のためには、生産者の特性・長所等を踏まえて、きめ細かい事業を展開する必要があります。

大沢野塩地区産のエゴマは、(株)健菜堂が農業法人として生産を行っていますが、雑草繁茂などの問題があり、収量が上がらない等の課題があります。

ネパール産エゴマは、(株)健菜堂が輸入しています。富山産のエゴマだけでは市内の生産力に限界があることから、無農薬で安価なネパール産を大量かつ安定的に輸入することで、市内需要に対応します。また、ネパール産エゴマは有機認証を受け、富山で精油をすることにより、「富山えごま」の認定要件を満たしますが、国産に比べて、味覚にくせがあるといった課題があります。

個人生産者等で生産するエゴマは、本市に適した栽培方法が十分に確立していないことなどから、生産者数が増加しにくいことが課題です。

こうした中、JA あおば管内では平成 30 年 3 月に JA あおば えごま・ごま生産部会が設立され、エゴマの生産拡大が期待されています。

区分	収穫量	説明	課題	長所
1 大沢野塩地区産のエゴマ	1.75トン	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)健菜堂が生産 ・有機認証を受ける予定であるが、予定より遅れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草繁茂などの問題があり、収量が上がらない。 ・生産量に限界がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・純富山市産の「富山えごま」の中心的位置づけ。 ・有機認証を受けることにより、信頼感が高まる。
2 ネパール産エゴマ	35トン	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)健菜堂が輸入。 ・富山市内の生産に限界があることから、無農薬で安価なネパール産を、大量かつ安定的に輸入。 ・有機認証を受ける予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国産に比べ、味覚にくせがある。 ・生産体制や収量が現地の情勢に左右される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山市産ではないが、有機認証を受け、富山で精油をすることにより、「富山えごま」として位置づける。 ・大手通販会社からも引き受ける予定もあり、大量の「富山えごま」オイルとして、流通する。
3 個人生産者等生産エゴマ	4トン	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人、個人生産者等が生産 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市に適した栽培方法が十分に確立していない。 ・生産者ごとの単収に差がある。 ・高齢化等により生産者数が増加しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機認証を得ないものの、純富山市産のエゴマである。

(2)限定的な販路

エゴマの葉・実・油はそれぞれ商品として地場もん屋総本店などで販売されますが、販路が限定されており、結果として消費者の目に届く形で富山えごま関連商品が十分に提供できていないことが課題となっています。

(3)エビデンスの周知不足

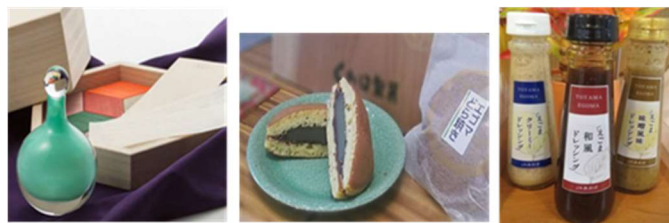
エゴマに含まれるオメガ3系脂肪酸の効能については、これまでイタリア食科学大学、富山大学、名古屋市立大学による研究により一定のエビデンスが集積されており、「富山市えごま6次産業化グループ」でのワークショップ等を通じて周知していますが、市民から「具体的な健康効果がわからない」、「他地域のエゴマとの成分の違いがあるのか」などの声が寄せられ、エゴマの効能に関する理解が浸透しきれていないことが課題となっています。

(4)他地域のエゴマ商品との差別化が不明確

富山市えごま6次産業化推進グループ会員等が開発した富山えごま関連商品は90品目以上となり、メディアにも取り上げられるようになりましたが、他の地域のエゴマ関連商品との差別化が不明確であり、消費者にとって富山えごまの購買意欲に必ずしも結び付いていないことが課題となっています。



▲地場もん屋総本店 富山えごま専用コーナー



▲富山えごま関連商品

(5)サプライチェーン全体のストーリー訴求力不足

えごま6次産業化の取組は、環境未来都市、SDGs未来都市のプロジェクトにも位置づけており、環境・経済・社会の統合的な取組のリーディングケースとして国内外で注目を集めています。しかし、生産から加工・流通販売までの一連のサプライチェーンにおいて、持続可能性を追求したストーリーの訴求力が弱く、富山えごまのブランディング面で課題があります。

(6)牛岳温泉植物工場でのエゴマ葉の需要不足

牛岳温泉植物工場は、環境未来都市計画のリーディングプロジェクトとして、温泉熱や再生可能エネルギーを活用してエゴマ葉の水耕栽培を行う全国的にも珍しい工場であり、市民や各種団体へ普及啓発を行うシンボリックな施設としての面があります。一方、工場で生産するエゴマ葉については、これまで学校給食での活用や地場もん屋での販売を行っていますが、需要が伸びない状況です。今後、エゴマ葉を安定的に供給しつつも、他の葉物野菜の栽培を組み合わせながら、いかに工場のスペックを最大限に活用していくかが課題となっています。



▲学校給食の様子



▲エゴマの葉入りハンバーグ（給食献立にて）

第3章 えごま6次産業化推進に向けた戦略

第1節 将来方針

富山えごまの6次産業化を通じて、SDGsの推進による自律的好循環の創出に寄与し、環境・経済・社会が調和する「地域循環共生圏」を実現する。

富山えごまは、日常的に食べることで健康や美容に良い効果が期待できることは知られています。一方で、エゴマ生産の過程で、耕作放棄地や温泉熱を活用することで地球環境への負荷を減らし、製造面でも、エゴマの葉・茎・種全てムダなく活用して商品開発ができるという特徴も併せ持ちます。

このことから、「健康食品」というイメージだけでなく、持続可能な社会にも貢献できるという面に注目し、富山えごまの6次産業化を通じて、市内外に広く普及させ、市民の健康増進、産業の振興、雇用創出・人材育成、クリーンエネルギーの利活用、食育、地産地消、国際展開など、SDGsの推進による自律的好循環の創出に寄与します。

さらに、富山えごまの6次産業化により、エゴマ生産に関する土地、水、人といった地域資源を循環し、環境・経済・社会の統合的調和を図る「地域循環共生圏」の実現を目指します。

＜SDGsの推進による自律的好循環の創出＞



＜地域循環共生圏の概念図＞



第2節 戦略コンセプト

「からだ・地域・未来を元気にする、みんなの富山えごまプロジェクト」

富山えごまの推進に関するプラットフォーム機能を持つ「富山市えごま6次産業化推進グループ」は、産学官民の様々なステークホルダーが参画しており、富山えごまの6次産業化を推進する上で、重要な役割を果たすことから、今後も、本協議会が中心となり、具体的なアクションを実施するとともに、「からだ」、「地域」、「未来」を元気にする魅力的な「富山えごま」を市民全体が「自分ごと」として捉えるプロジェクトを展開します。

また、市民一人ひとりが富山えごまの普及展開プロジェクトに積極的に関わっていただくことで、「生産農家の拡大」、「新しい視点での商品開発」、「市内・市外での販路拡大」を加速させます。

このコンセプトを具体的に整理すると、①富山えごまの安定供給、出口戦略の布石を打つ(生産力・販売力強化)、②市民に「富山えごま」を覚えてもらう(認知力強化)、③国内外へ需要を拡大し、「富山えごま」のブランド力を高める(ブランド力強化)、に集約されます。

第3節 短期戦略

「みんなの富山えごまプロジェクト」は、「富山市えごま6次産業化推進グループ」を中心に展開することを想定しており、短期戦略として、①新規参加メンバーの獲得、②プロジェクトの認知拡大、③6次産業化推進グループメンバーの活動活性化の3つを設定します。

① 新規参加メンバーの獲得

プロジェクトは「市民全員事化」を目指すため、関係者に限らず広く参加を促す必要があります。「食べるだけでも参加」のように参加に関する物理的・心理的障壁を低くすることで、多くの参加獲得を目指します。

② みんなの富山えごまプロジェクトの認知拡大

幅広い産業の方々が共創・協働し、6次産業化を推進していくことを目指すため、プロジェクト自体の認知を獲得・拡大していくことを狙います。

③ 6次産業化推進グループメンバーの活動活性化

2013年に設立、活動を続けている「富山えごま6次産業化推進グループ」に参加いただいているメンバーへも、より積極的に活動へ参加したくなる仕組みを用意し、既存メンバーの活動活性化を促します。

第4章 推進施策

〈考え方〉

「ブランド」という概念は、一部の高級品や広告表現を表すものではなく、固有で魅力的な「らしさ」を表す考え方です。「富山えごま」のブランド力を強化することは、①様々な商品の中でも選ばれる存在になる、②多くの関係各所との絆を強くする、③強いチームワークを生む、④様々な活動を行う上での判断基準になる、などの多くのメリットが想定できるため、次の各分野において強化施策を実施していきます。

第1節 富山えごまの生産力強化

〈具体的な取組〉

(1) スマート農業導入実証モデル事業

エゴマ栽培に適合したスマート農業導入等について、コンソーシアムを結成して調査・実証

①スマート農業導入コンソーシアム運営

②スマート農業機器導入事業

無人トラクター、GPSガイダンスシステム、自走式草刈機、ドローン、リモートセンシング等を導入し、労働時間の短縮や正確性、効率化などの効果を検証

③クラウドシステム構築業務

風向や風速、気温、土壌水分量等について、センサーネットワークを活用して、クラウドデータにデータを送信し、データの見える化を実施

④スマート農業機器によるデータ収集解析

⑤株間除草ロボット研究調査

エゴマ植え付け後に、株間除草ロボットの試作品テスト運転及び改良、効果の検証

スマート農業導入実証モデル事業イメージ図



⑥市民への普及啓発事業

認定農業者や農業参入企業等を対象に平場や中山間地におけるスマート農業による栽培や株間除草ロボット試作品の試験運転会を開催



(参考) 大沢野塩地区におけるスマート農業
実証試験のデモンストレーション (2019年5月)

(2) 薬用植物生産推進事業

(3) エゴマ安定栽培実証調査・生産普及拡大事業

栽培実証調査を実施、学識経験者等で構成する「エゴマ栽培研究会」にて検証し、栽培方法の確立や普及を検討

(4) 大区画貸付農地管理事業

農地及びエゴマ用機械の貸付

(5) ソーラーシェアリングの導入可能性検討

農地の上に太陽光発電を設置し、再生可能エネルギーの有効活用と農作物の付加価値向上を目的としたソーラーシェアリングの導入可能性について検討

(6) 農協等と連携したエゴマ生産拡大に向けた検討

植物工場での葉や露地栽培での実の安定的な供給を目指し、農協等との連携を検討

《SDGsゴール・KPI》

ターゲット2.4

2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような持続可能な食料生産システムを確保し、強靱な農業を実践する。



ターゲット7. 2

2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。



ターゲット7. 3

2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。

ターゲット8. 2

高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。



KPI

KPI	
指標: エゴマの栽培面積	
現在(2018年度): 市内で作付されているエゴマの栽培面積 30.1ha	2026年度: 市内で作付されているエゴマの栽培面積 35.0ha

第2節 富山えごまの販売力強化

〈具体的な取組〉

・富山えごま関連事業者の拡大に向けた市外事業者との連携

富山市外のエゴマ流通販売業者に対して、富山えごま関連商品のPRを実施し、販路拡大に向けた強化を模索

・民間企業等の食堂でのエゴマの活用奨励

民間企業等の食堂においてエゴマを活用するよう奨励

・SDGs未来都市関連企業への奨励

SDGs未来都市関連企業に対し、富山えごま関連商品を奨励

・販路開拓のためのサポート体制の強化

富山市えごま6次産業化推進グループ会員による富山えごま関連商品のPRなど販路拡大に向けたサポート体制を強化

・セルロースナノファイバー技術を活用した新素材の開発・販路拡大

セルロースナノファイバー技術を活用し、エゴマ葉の残渣から衣類、農業資材などの新素材開発を行い、新たな市場販路を開拓

《SDGsゴール・KPI》

ターゲット9. 1

すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱なインフラを開発する。



ターゲット17. 17

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



KPI

KPI	
指標: 富山えごま認定商品数	
現在(2018年度): 84商品(累計)	2024年度: 140商品(累計)

第3節 富山えごまの認知力強化

《具体的な取組》

・テレビ・ラジオCM制作・放送

主婦層をターゲットとし、「健康効果」に焦点を当てたCMを制作し、放送



▲【イメージ】令和元年度に制作・放送したCM

・広報媒体制作

CMと連動したポスターの制作、富山えごま商品や健康効果を訴求する広告物、WEB制作、料理レシピの掲載

・富山えごま関連イベント開催

富山えごま認定商品を集めた、展示・試食・販売等のイベントを開催

・新規商品開発に関する機能・技術マッチング、情報共有等のサポート体制の構築

・富山市の特色ある商品とコラボレーションした商品開発の企画・制作

・デザイン性の高いパッケージを使い、富山のお土産品として商品開発

《SDGsゴール・KPI》

ターゲット12. 8

2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。



ターゲット17. 17

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



KPI

KPI	
指標: 富山市えごま6次産業化推進グループ会員数	
現在(2018年度): 100 団体・個人	2024年度: 120 団体・個人

第4節 富山えごまのブランド力強化

＜具体的な取組＞

・「富山えごま」商品開発ワークショップの開催

富山市えごま6次産業化推進グループ等のメンバーを中心に、事業者が実践に結び付けられる手法の検討・確立のためのワークショップの開催



▲令和元年度に実施したワークショップの様子

・サブリ試用のモニター・効能の検証

一般市民等から公募し実施したサブリ試用の効能の検証及び有効活用

・市民等へのエゴマカプセル等斡旋販売

地場もん屋、富山市職員福利厚生会等と連携し、斡旋販売を実施

・ANAとの共同事業の実施

ANA総研と連携して、ANAマルシェへの出展やイベントへの参加

・国内外市場開拓プロモーション

国内外のイベント等において、富山えごまのPRを行い、新たな市場を開拓

＜中長期的なアクション＞

富山えごまのブランド力のより一層の強化を図ることを目的に、中長期的な取組みとして実施に向けた各事業の検討を行う。

・富山えごま6次産業化の自走化、社団法人・協会等の設立

・富山えごまの高付加価値化に向けた「美容」や「スローフード」等の訴求

・富山えごまを使った「食育」の実施

・首都圏（東京）の著名レストランへの働きかけの強化

・温泉、登山等のアクティビティと栽培・収穫体験をかけたツアーパッケージの実施

＜SDGsゴール・KPI＞

ターゲット8・9

2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。



ターゲット17. 17

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



KPI

KPI	
指標: 富山市えごま6次産業化推進グループ会員数	
現在(2018年度): 100 団体・個人	2024年度: 120 団体・個人

第5章 計画の推進体制と進行管理

第1節 計画の推進体制

えごま6次産業化の一層の推進を図るためには、「富山市えごま6次産業化グループ」を中心としながらも、地域の農業者、農協等の関係団体、消費者、行政等が連携して、川上(生産)から川下(流通・販売)までを持続的に発展させ、産業力を強化していくための各種施策を総合的に展開していく必要があります。

第2節 各種計画への反映状況

1. 第2次富山市総合計画前期基本計画

まちづくりにおける長期的かつ基本的な方向を示すとともに、これらを実現していくために、環境や高齢化、地域産業の活性化の取組により、人・まち・自然が調和する活力ある都市の実現を目指すものです。計画では、富山の伝統的な基幹産業である薬業の振興に努めるとともに、エゴマなどを使用した健康に配慮した食への取組を推進していくこととしています。

2. 第2期富山市環境基本計画

持続可能な社会の実現に向けて、環境に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、市民・事業者・行政が一体となって取り組む方策を定める第2期富山市環境基本計画について、医薬品や健康食の原料となる作物栽培を支援することを明記し、えごま6次産業化の取組を推進していくこととしています。

3. 第2次富山市環境未来都市計画

環境や高齢化等への対応の面で、環境価値・社会価値・経済価値の創造に繋がる成功事例を創出し、持続可能で誰もが暮らしたいまち・誰もが活力あるまちを実現するための方策を定める第2次富山市環境未来都市計画について、価値創造のためのSDGsの必要性を計画に明記し、えごま6次産業化の取組を推進していくこととしています。

4. 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略

今後の人口減少傾向を抑制し、雇用創出や、交流・定住促進、生活環境の充実などを図り、持続可能なまちづくりを目指す総合戦略について、えごま6次産業化の推進を盛り込んでいます。

5. 富山市農業・農村振興計画

「薬都とやま」のイメージや、県機関・大学等での研究実績、第2次産業・第3次産業の多い市内の産業構造を活かして、エゴマ、シャクヤク、エゴマなどの薬用・健康作物生産振興を図ることにより、本市の新たな特産品を創生し、耕作放棄地の解消、生産者所得の向上、輸出等の海外展開につなげることをしています。

第3節 計画の進行管理

本計画を着実に推進するため、毎年度、目標指標を基本に進捗状況を調査し、見つかった改善点は次年度の事業実施につなげ、継続的な事業展開を図ります。

<資料編>

富山えごまの普及に向けたこれまでの取組

1. 効果・効能に関する研究・分析

<国立大学法人富山大学>

- ・「エゴマブランド化促進に関するエゴマ成分分析及び抽出技術研究業務委託」
ラットを使った研究により、ブレンドオイルの成分の優位性が確認された。
- ・「エゴマブランド化促進に関するエゴマ含有成分の有効性実証研究業務委託」
がんの悪液質を移植したマウスに対して、エゴマ油の摂取ががんによって生じる筋肉の消耗を軽減することが示された。

<公立大学法人名古屋市立大学>

- ・「エゴマブランド化促進に関するエゴマ効能分析研究業務委託」
エゴマに含まれるロスマリン酸(ポリフェノールの一種であり、抗アレルギー作用や抗酸化作用を有する)は、前立腺癌細胞の増殖を抑制する効果があることがわかった。

2. 普及展開・広報活動

【レシピ掲載リーフレットの作成】

「富山のえごまで簡単レシピ」vol.1～vol.6 作成（平成30年度～令和元年度）



【「富山えごま」富山えごまブランド確立及びロゴマーク作成】

富山のエゴマを地域ブランドとして普及するため、新たなブランド名「富山えごま」及び認定要件等を確立したほか、市民公募によりロゴマークを作成。



【富山えごま体験ツアーの実施】

開催日:平成 30 年 8 月

内 容:富山市公募提案型共同事業

やくぜんジェラー富王国実行委員会(星槎国際高等学校)と協働して実施

参加者:市内児童及びその保護者

場 所:牛岳温泉植物工場、大沢野塩地区エゴマ圃場

【富山えごまの育て方講習会・体験会の実施】

開催日:令和元年 6 月

内 容:エゴマの効能や栽培方法の説明及び市民農園にて育て方の体験会を実施。



【コンビニエンスストアにてメニュー発売】

販売期間:平成 28 年 7 月

販売場所:北陸三県のローソン

販売商品:牛岳温泉植物工場で栽培したエゴマの葉や、市内の露地栽培で収穫したエゴマオイルを使用したおにぎり、パスタ、サンドイッチ



【普及啓発キャンペーン】

「エゴマを育ててみよう」キャンペーン

実施日:平成 29 年 7 月、平成 30 年 6 月

【CM放映】

期 間：令和元年10月～12月

テレビ放送局：北日本放送、富山テレビ、チューリップテレビ

ラジオ放送局：北日本放送、FMとやま

出 演：柴田理恵氏(富山市特別副市長)



【「とやま情報局」での特集】

放 映 日：令和元年10月27日

放映時間：11:45～12:00

放 送 局：北日本放送

内 容：「富山えごま」の魅力と、エゴマを広く知ってもらうための取組について

【市広報誌「広報とやま」での掲載】

内 容：イベント案内及び参加者募集、エゴマのレシピ掲載等



▲【参考】令和元年度11/5号掲載ページ

【SNSアカウント開設】

富山えごまの Facebook 及び Instagram アカウントを開設。エゴマ事業に関する情報やエゴマレシピを随時発信。

【ワークショップの開催】

＜地域ブランド創生ワークショップ＞

開催日：平成30年11月、平成31年1月、3月

内 容：・ブランディング専門家(委員会委員)による講義

- ・地域関係者に対する地域ブランド創生の取組に関するヒアリング
- ・地域ブランド構築の方向性の検討
- ・知的財産活動の方向性の検討

＜富山えごま戦略策定におけるワークショップ＞

開催日：令和元年10月、11月

内 容：富山市えごま6次産業化推進グループ会員の勉強会。ブランディング及びブランド力を維持・向上していくためのビジョンを関係者間で共有。

【小中学生向け富山えごま講座&お料理コンテストの開催】

開催日：富山えごま講座 令和元年7月、料理コンテスト 令和元年8月

開催場所：富山市南学校給食センター、学校法人青池学園 富山調理製菓専門学校



【ブース出展】

健康博覧会

アグリフードEXPO

JC全国大会

TGC富山



【エゴマ首都圏プロモーション事業】

開催期間：平成 29 年 11 月

開催場所：日本橋とやま館、日本橋ゆかり

- 内 容：・エゴマ商品(エゴマブレンドオイル、ドレッシング、ジェノベーゼソース等)の展示販売
- ・トークイベント
 - ・「日本橋ゆかり(高級日本料理店)」でのエゴマ料理試食会の実施



3. 国際展開

【研究協力協定締結】

締結先：イタリア食科学大学

- 内 容：・新たな研究開発や相互交流促進についての協力協定。
- ・共同研究を進め、エゴマ油とオリーブ油のブレンドオイルについて、黄金比をエゴマ油：オリーブ油＝3：7であると発表した。

【国際展開業務】

平成 29 年度

- ・エゴマ関連商品の輸出支援、
- ・日本産食材サポーター店に対する富山食材の販路開拓に向けた支援
- ・権利確認、認証制度等の確認
- ・現地レストラン等とのマッチング、現地滞在時の全体行程支援

平成 30 年度

- ・海外販路開拓に有用な有機認証取得に関する支援
- ・富山えごま関連商品の輸出支援
- ・日本産食材サポーター店に対する富山食材の販路開拓に向けた支援
- ・現地における富山えごまPR活動、現地レストラン等とのマッチング

令和元年度

- ・海外販路開拓に有用な有機認証取得に関する支援
- ・海外販路開拓のためのマッチング機会の創出
- ・フランスバイヤーとグループ会員との商談会を物産振興会と合同で実施

【海外イベント参画】

<ミラノ万博参加>

日程：平成 27 年 5 月

内容：ミラノ万博日本館認定イベントである「ピースキッチンプロジェクト」と連携し、PR イベント内及び常設会場にて市長のトップセールスやバイヤー向けワークショップを実施

<イタリアでのトップセールス>

日程：平成 29 年 10 月 イタリア・ミラノ

内容：ミシュラン1つ星レストラン「リストランテ・トクヨシ」にエゴマオイルを使用したメニューを考案・提供してもらった（常時メニュー化はされていない）。また、同店はジェトロが認定する「海外における日本産食材サポーター店」のイタリア第一号店として認定



<フランス・パリにてPRイベント参加>

日時：令和元年 11 月 フランス・パリ

内容：ジェトロ富山と有力日本食材卸商社 NISHIKIDORI がタイアップし、現地の星付きレストランのシェフ・ソムリエ、食品加工製造業者等約50名を対象に開催。エゴマ油のPRを実施。



＜香港 Food EXPO への出展＞

出展日：平成 30 年 8 月



4. 食育の推進

【エゴマを使った献立提供】

提供場所：市内の小中学校

提供年度：H27 年度～現在

【エゴマを使った給食向け加工食品試食会】

開催日：平成 25 年 7 月～9 月

参加者：給食担当栄養士等

【エゴマを活用した保育所給食】

実施日：平成 26 年 6 月

場 所：市内の全私立公立保育所 計 88 カ所

【市役所内食堂にてエゴマを使用した料理の提供】

実施日：平成 30 年度、令和元年度 通年

場 所：富山市役所内食堂



富山えごま認定商品一覧

(令和2年2月末現在:27社・団体、98品目)

	商品名	企業名
1	広貴堂 エゴマゴールドブレンドオイル プレミアム 2018	株式会社廣貴堂
2	えごま油 PREMIUM	株式会社健菜堂
3	えごまの葉	株式会社健菜堂
4	えごまスプラウト	株式会社健菜堂
5	えごまどら焼き	銀心菓創 くれは製菓
6	とやまエゴマカレースライス中辛	アジヤンタスライス
7	とやまエゴマカレースライス甘口	アジヤンタスライス
8	とやまピクルススパイス	アジヤンタスライス
9	エバリーフ配合チャイスライス	アジヤンタスライス
10	エバリーフ配合マサラチャイスライス	アジヤンタスライス
11	エバリーフ配合ジンジャーチャイスライス	アジヤンタスライス
12	スパイスソルト地中海(100g)	アジヤンタスライス
13	スパイシーエゴマチキンカリー	アジヤンタスライス
14	ココナッツエゴマチキンカリー	アジヤンタスライス
15	龍心ゴールドSP	株式会社奥田庄太郎商店
16	えごまアマレットィ	Monsieur J(ムツシュ・ジー)
17	えごまクッキー	Monsieur J(ムツシュ・ジー)
18	えごまマカロン	Monsieur J(ムツシュ・ジー)
19	やくぜん梅・えごままぜご飯	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
20	やくぜん梅・えごまお茶漬	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
21	やくぜん梅・えごま雑炊	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
22	やくぜん十八穀 老少女のごはん	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
23	やくぜんしろえびたまご丼	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
24	やくぜんしろえびきのこスープ	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
25	やくぜんしろえびわかめスープ	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
26	やくぜんしろえび長ねぎみそ汁	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
27	やくぜんえごま野菜たまご雑炊	特定非営利活動法人食と福祉と環境を考えるネットワーク
28	とやまエゴマクッキー	クオーレ
29	とやまエゴマグリーンケーキ	クオーレ
30	とやまエゴマブラウンケーキ	クオーレ
31	とやまエゴマドレッシング	クオーレ
32	Egoma Pesto(エゴマペースト)	クオーレ
33	とやまの紅茶 エゴマリーフティー	富山紅茶の会
34	えごま油	あおば農業協同組合
35	えごまドレッシングクリーミー	あおば農業協同組合
36	えごまドレッシング和風	あおば農業協同組合

37	えごまドレッシング味噌風味	あおば農業協同組合
38	黒えごま粒	あおば農業協同組合
39	富山えごま飴	株式会社島川
40	富山えごまパニーニ	株式会社パン・オーレ
41	富山えごまあんバターパン	株式会社パン・オーレ
42	エゴマ美人(ロールケーキ)	株式会社パン・オーレ
43	エゴマ美人(クッキー)	株式会社パン・オーレ
44	富山えごまプチパン	株式会社パン・オーレ
45	えごまジェラート	やくぜんジェラー富王国実行委員会
46	チーズタッカルビ	Korean Kitchen TEJI KAEN
47	ナッチポックム	Korean Kitchen TEJI KAEN
48	包み野菜	Korean Kitchen TEJI KAEN
49	エゴマカクテル	Korean Kitchen TEJI KAEN
50	エゴマとパクチーのサラダ	Korean Kitchen TEJI KAEN
51	エゴマとたっぷり野菜の海鮮生春巻き	越中の台所「季の香」
52	エゴマ肉巻きミルフィーユかつ	越中の台所「季の香」
53	とやま素材ーロピザ・エゴマ粉生地	越中の台所「季の香」
54	とやまグリーン・ブラウン餃子の皮	越中の台所「季の香」
55	自家製えごま味噌	越中の台所「季の香」
56	自家製えごまゼリー	越中の台所「季の香」
57	えごまのグリーンマカロニ	越中の台所「季の香」
58	えごまのバジルソース	越中の台所「季の香」
59	国産えごま	株式会社健菜堂
60	国産えごまパウダー	株式会社健菜堂
61	「富山えごま」と「べっ嬢さくらますうらら」のおむすび	株式会社源
62	富山米シューラスク えごま	大野菓子店
63	紫甘丹	大野菓子店
64	純米ロール えごま	大野菓子店
65	「富山えごま入り」粗挽きソーセージ(とやまポーク100%)	越中の台所「季の香」
66	エゴマ生餃子	餃子のまーちゃん
67	えごま醤油漬け	焼肉と韓国料理や 汝矣島
68	えごまめ(パウンドケーキ)	セーナー苑 工房 CoCo
69	えごまクッキー	セーナー苑 工房 CoCo
70	えごまシフォンケーキ	セーナー苑 工房 CoCo
71	野菜たっぷりプレート	café BLUE LEAVES
72	野菜たっぷりセイロ蒸し	café BLUE LEAVES
73	野菜たっぷり弁当	café BLUE LEAVES
74	えごまスープ	café BLUE LEAVES
75	エゴマとササミと野菜の揚げ春巻き	隠れや café ふう

76	うす切豚ロースのエゴマ焼	隠れや café ふう
77	有機ふすまのとんかつ エゴマだれ	隠れや café ふう
78	エゴマとバナナのチーズケーキ	隠れや café ふう
79	エゴマの自家製ドレッシング	隠れや café ふう
80	エゴマのリュスティック	Baku house
81	富山えごまのガーリックラスク	株式会社パン・オーレ
82	富山えごまのガーリックラスク(ブラックペッパー味)	株式会社パン・オーレ
83	富山えごまの二上桜酵母あんパン	株式会社パン・オーレ
84	富山えごまとハムカツのサンド	株式会社パン・オーレ
85	ベジウエル(大豆)	モカ洋菓子店
86	ベジウエル(人参)	モカ洋菓子店
87	エゴマ油 100%ソフトカプセル	株式会社廣貫堂
88	えごまゴールドブレンドオイル	株式会社廣貫堂
89	えごまジェノベーゼ	株式会社廣貫堂
90	えごまハーブソルト	株式会社廣貫堂
91	えごまドレッシング 梅肉・大根	株式会社廣貫堂
92	えごまドレッシング ゆず・たまねぎ	株式会社廣貫堂
93	えごまドレッシング ねぎ・りんご・ブラックペッパー	株式会社廣貫堂
94	えごまつくね	炭火串焼 雅楽多
95	えごま入り焼きおにぎり	炭火串焼 雅楽多
96	えごま御膳	株式会社石橋
97	エバオイル	株式会社健菜堂
98	富山えごまん	株式会社あいの風

富山市えごま6次産業化推進プラン

令和2年3月 第一版 策定